



2022 JR 総連春闘勝利！ シリーズ⑮

リニア建設さえなければ、 満額回答は確実だ！

会社は3月18日、第6回団体交渉で、ベアゼロ、定昇のみ実施（標準乗数4）、夏季手当2.2ヶ月という社員の切実な要求を蔑ろにする回答を行いました。本部は、その場で再申し入れを行いました。

会社は、赤字を理由に賃金を大幅に抑制しました。さて、赤字の原因は何でしょうか？勿論、コロナによる収入減は否定できません。しかし、それ以上にリニア建設への投資が経営の足を引っ張っています。言いかえるなら、リニア建設さえやらなければ、賃上げは充分すぎるほど可能なのです。

リニア建設を強引に推し進めている会社に追随し、積極的に賛成しているJR東海ユニオンの存在こそ、まともな賃上げができない原因をつくっているのです。戦時中「ほしがりません勝つまでは」というキャッチフレーズが流行しました。JR東海に当てはめると、「ほしがりません」とは賃金（給与やボーナスなど）のことであり、「勝つまでは」とはリニア開通のことではないでしょうか。

リニアは、名古屋までの建設費が1.5兆円増の7.04兆円で、資金調達や返済計画さえ明確にされていません。コロナ禍によるリモートの増加で、これまでの収入は見込まれないというのが一般的な見方です。工事の事故は立て続けに4件も発生しました。愛知県で残土からヒ素などが検出されました。工事の遅れは各地で起きています。残土処理然り、水の流出問題然り、リニアの明るい話題は何1つありません。そのような中でも、リニア建設を強引に推し進めることこそ、会社倒産運動です。

全社員の皆さん、まともな賃金を獲得するためにも、リニア建設に反対しようではありませんか。